



平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

新潟県岩船郡山北町長 大滝 平正



中期的な計画の作成にあたっての意見について

このことについて、平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼があったので、下記のとおり提出します。

記

今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策について

(1) 高速道路ネットワークの早期完成

今この時期に最も急ぐべきは、高速道路ネットワークの早期完成である。

「道路整備は概成しており、もはやこれ以上の道路整備は不要」というような意見が都市部を中心に声高に出ているが、今ようやく概成されたと感じているのは一般国道のネットワークであることを認識すべきだ。

一般国道はすでに生活道路と言える時代となっており、国家戦略としての国土開発や地域連携を担う道路は「高速道路ネットワーク」であるとの認識の下に早期完成を図るべきだ。

(2) 渋滞対策

都市部の人口密集地などにおける渋滞対策は必要だが、バイパス整備や踏切改修などの従来型の対策では、用地・補償や環境問題等から、長期化・コスト高を招いている現状がある。視点を変えて、「脱マイカー」を誘導する、バスなどの公共交通機関への支援など、間接的手法で渋滞解消する対策も考えるべきだ。

2 効率化を進める上で重視すべきことについて

(1) 入札制度改革

事業の透明性確保のために、入札契約制度の改革は徹底して行うべきだが、中小企業を育成するための配慮が必要である。

(2) コスト削減

従来言われてきた工法の工夫や技術開発によるコスト削減は限界に来ている。道路計画にあたって、適切な利用目標設定を行い、それに応じたきめ細かい道路構造・規格と品質設定によって、よりコストを抑えた道路整備ができるのではないかと。

3 その他、道路政策等について

(1) 高速道路料金の引き下げについて

道路税収の一部一般財源化が行われようとしているが、それよりも、道路税収の一部を充当し、高速道路料金の引き下げを図るべきだ。安易な一般財源化は利用者・納税者の理解が得られない。

(2) 道路整備の基本姿勢について

そもそも「道路」は、「人口が多い・少ない」「利用が多い・少ない」などを理由に整備の是非を問うものではないと考えます。

人が生活していくうえでの根幹的かつ必要最小限の社会資本であるとの認識でその整備に取り組むべきです。

「無駄な道路整備が多い」「道路整備には緊急性がない」「田舎の高速道路は不要」などといった、世論を誘導するがごとくマスコミ報道はきわめて遺憾です。今後とも、地方の実態・地方の声も十分に踏まえて、道路整備を推進することを望みたい。